

総領事館便り9月号



＜総領事館ニュース＞

☆第5期日本語パートナーズ着任式

8月16日(火)、国際交流基金アジアセンター“日本語パートナーズ”第5期着任式が市内の Swiss Belinn Hotel Tunjungan で実施されました。今回、東ジャワ州には合計21名の日本語パートナーズが着任し、来年3月の任期まで東ジャワ州内各高校に派遣されることとなりました。第5期日本語パートナーズの派遣地域は、これまでの派遣地域(スラバヤ市、シドアルジョ市、モジョクルト県、パスルアン県、マラン市)に加えて、新たにグレシック県及びバトウ市にも派遣されることとなりました。

本事業は、ASEAN 諸国の教育機関で日本語を教える教師やその生徒のパートナーとなる人を一定期間日本から派遣し、現地の日本語教育を支援すると同時に、パートナー自身も、現地の言語や文化についての学びを深め、ASEAN諸国と日本との架け橋となることが目的となっています。2014年の事業開始以降、これまでに、インドネシアには既に約 200 名の日本語パートナーズが派遣されています。



古賀首席領事による挨拶



出席者による集合写真

☆「東ジャワ州ラモンガン県におけるイスラム中学校施設の拡充計画」供与式典

9月7日(水)、ラモンガン県において平成26年度に日本政府が草の根・人間の安全保障無償資金協力の枠組みで支援したブスタヌル・ウルム・イスラム中学校の施設拡充計画の供与式典が行われました。本件は、同県での教育環境向上を目的として、同校で不足していた2教室及びトイレの増築、理科室及び図書室の建設、及び既存の老朽化した3教室の改築、並びにその備品を整備し、81,114米ドル(約8,380,000円)を資金供与したものです。供与式典に出席したファデリ・ラモンガン県知事は「今回の支援を機に日本人の勤勉性を見習って、同イスラム中学校から優秀な人材を育てて行かれるよう期待する。」と述べ、加藤総領事は「日本政府がラモンガン県の教育分野向上のお役に立てて嬉しく思っている。日本国民の気持ちをしっかり受け止め、今回支援を受けた施設の維持管理を行っていただきたい。」と挨拶しました。



プロジェクト実施前の校舎



改築・増築された新校舎



テープカットの様子

(左：加藤総領事、右：ファデリ県知事)



生徒との交流

＜総領事館からのお知らせ＞

☆日本情報テレビ番組 Kabar dari Jepang

当地テレビ局「Bios TV」の協力を得て、毎週土曜日と日曜日午前9時半より、日本情報発信テレビ番組「Kabar dari Jepang」の放送を始めました。これは、日本関連の映像やゲストへのインタビューを通じて東ジャワ州の方に日本に親しみを持っていただく目的で始められたインドネシア語の番組です。地上波での放送になりますので、ケーブルテレビをご自宅に設置されている方は、オンラインストリーミング（<http://www.streaming.bios-tv.co.id/>）を開き、ご覧いただく機器の種類（ios, Blackberry, Android）をクリック）でご視聴いただけます。是非ご覧ください。